

別紙（事後評価書）

令和2年度文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）

<p>通し 番号</p>	<p>1</p>	<p>事業区分： 劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業 助成対象団体名： 公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 施設名： 彩の国さいたま芸術劇場</p>
<p>助成対象活動に関する評価</p> <p>（妥当性）</p> <p>当該劇場では、埼玉県が平成29年度に策定した「埼玉県5か年計画-希望・活躍・うるおいの埼玉-」に掲げられた文化芸術の振興の内容を踏まえて2つのミッションを設定し、前芸術監督のレガシーを継承する方針のもと、事業を「創造・発信」「人材育成・普及啓発」「芸術文化活動への支援」「社会包摂」の4つに分類して推進している。事業計画において、各事業はミッションとの整合性があり、目標、指標とアウトカムにも関連付けが一定程度なされている。</p> <p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、全22事業のうち8事業が中止、11事業が一部中止又は日程変更になり、事業の一部はZOOM等を活用したオンライン配信で対応した。苦境にあえぎながらも取り組んだ各事業は、ミッションとの整合性が認められた。</p> <p>以上のことから、事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通り、事業が推進されたことが概ね認められた。</p> <p>（有効性）</p> <p>「彩の国シェイクスピア・シリーズ」では、前芸術監督のつくり上げた格調高い、世界的な芸術水準に到達した舞台成果に、現演出家によるエンターテインメント性が加えられ、舞踊公演では「フィリップ・ドゥクフレ」はじめ世界最先端のカンパニーを意欲的に招へいた。いずれも我が国のトップレベルの芸術文化の水準向上に繋がる内容と認められた。</p> <p>「ゴールド・アーツ・クラブ」には、当初の目標数を上回る700名余の高齢者が参加し、参加者からは「生活の張り合いができた」、「新しい仲間ができた」との声があり、参加者アンケートでも90%を超える満足度を得た。目標に掲げた「芸術文化活動を通じた生き生きと暮らす高齢者の増加」を測るための3つの指標のうち1つについては達成度合いが不明なもの、2つの指標は目標達成に向け順調に推移しており、人々の心豊かな生活の実現と、地域コミュニティの強化・再生に繋がるものと概ね認められた。</p> <p>「人材育成事業」の「さいたまダンス・ラボラトリ」では、次代を担う舞踊家の育成に努め、「MEET THE DANCE～アーティストが学校にやってくる！」には、2年間合計で900名余の小中学生が参加した。目標に掲げた「多様な人々の芸術文化活動への参加機会の拡充」を測るための指標は、最終年度の目標値に迫る水準にまで増加しており、文化芸術の裾野が拡大していることが認められた。</p> <p>指標の一部で県が実施している調査（社会生活基本調査、埼玉青少年の意識と行動調査）を根拠にしているため、最終年度評価には間に合わない指標があるものの、設定されたアウトカムの発現が概ね認められた。</p> <p>令和2年度では、新型コロナウイルス感染症の拡大により、目標値を達成できた指標が8項目中1項目にとどまったとの記載があるが、県の「埼玉県文化芸術振興計画」に基づいた指標を用いているため達成状況の因果関係が不明確であり、アウトカムの発現の判定</p>		

## 別紙（事後評価書）

が困難である。当該劇場は、県全体で効果を図るという観点から県の指標を活用しているが、評価の時期によっては効果の測定ができないものもあり、指標の設定と効果測定に改善を要する。

### （効率性）

事業はほぼ計画通り実施されており、事業期間は適切であったと認められた。

また、事業費は要望時の予算額と報告時の実績額とを比較すると、一部の費目に増減があったものの、ほぼ計画通り執行されており、適切であったと認められた。

### （創造性）

芸術性と大衆性が高度な次元で融合した「彩の国シェイクスピア・シリーズ」は、国内では類を見ない大ホール規模でのシェイクスピア全作品上演の企画であり、事前講座、ロビーコンサート、写真展など全館上げての事業は、取組の着眼点が画期的かつ壮大で、組織全体の発展や飛躍につながるものである。

舞踊公演では継続して海外カンパニーを招へいし、注目アーティストの初来日となった「ディミトリス・パパイオアヌー『Great Tamer』」は、舞踊ファンにとどまらず、演劇、美術、ファッション関係者にも影響を与える極めて上質な内容で、独創性、新規性が認められた。音楽公演では、古楽アンサンブルやリサイタル・シリーズ等、約 600 席の音楽ホールの特性を生かしたプログラムに独創性が認められた。

「さいたまゴールド・シアター」は、新たな演出家を迎え、自らの体験を台本化して演じる形態に挑戦し、神奈川県主催の共生共創事業に招へいされた。さいたまネクスト・シアターとの合同公演となった「蜷の綿」では、表現力にやや課題が見られたものの、高齢者の刻んできた人生の深みが若手を中心とした演技に厚みと迫力を与えていた。

「さいたまネクスト・シアター」では、気鋭の演出家を起用して、新シリーズ「世界最前線の演劇」を立ち上げた。イスラエル、パレスチナ等、日本には馴染みの少ない国の作品への取組には新規性が認められた。

「ゴールド・アーツ・クラブ」には 700 名を超える高齢者が参加し、高度なスタッフワークに支えられて、回を重ねるごとに難易度の高い表現に挑んだ。約 2 か月、10 回の稽古を経て行われた成果発表は、出演者一人一人が生かされるように工夫された高齢者の自己表現の場となっており、劇場の持つ社会包摂機能としての一つのあり方を提示していた。

一連の事業内容に、独創性、新規性、先導性が認められた。

「世界ゴールド祭」では、世界各国から高齢者の実演家が集い、公演、シンポジウム、ワークショップ等が繰り広げられ、国内初の取組には、5,000 名を超える参加者が来場し、マスメディア等の取材は 70 件を超えた。地元商店街を会場にした屋外での演劇作品も上演され、徘徊演劇「よみちにひはくれない」の演出家は芸術選奨新人賞を受賞した。加えて、「世界最前線の演劇」では、2 年連続して翻訳家が小田島雄志・翻訳戯曲賞を受賞し、既に広く認知されている「さいたまゴールド・シアター」とも合わせ、当該劇場の国内での評価の向上につながっていると認められた。

令和 2 年度では、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、地道な事業展開に努めた。コンドルズ公演では新作の映像作品を当該財団の公式 YouTube 上で発信し、通常 2,000 人弱の観客数が、配信回数では 10,577 回に達し 98.5%の高評価を得た。さらに社会包摂事業の「パーキンソン病患者におけるダンスプログラム」では、対面で近隣 5 都県

## 別紙（事後評価書）

平均 20 名程度の参加が、ZOOM の活用により、24 都府県 1 回あたり平均 46 名と倍増した。

海外招へいダンス公演で唯一実施できたフランソワ・シェニョー&ニノ・レーネ「不確かなロマンス—もう一人のオーランドー」は、音楽と映像造形、巧みなダンス等により、独創性と新規性に秀でていたものの、メッセージ性は平たんであり、先導性ある海外作品を日本に紹介したことにとどまった。

藤田貴大による新作児童劇は、台詞等のテンポが速く幼児には理解が難しい構成であったが、興味をそそる視覚的な仕掛けが随所に組込まれ、スタッフワークの専門性に独創性と新規性が認められた。また、公立劇場が新作児童劇を創作し各地を巡演する企画の発案自体に先導性が認められた。

### （持続性）

組織面では、平成 28 年 4 月 1 日で対象となる有期契約職員のうち無期契約への転換を希望した全員を無期契約化し、組織体制の強化を図り、安定的な雇用環境の実現に努めている。財務面では、県との良好な関係に加え、民間助成金の活用や、120 社・12,000 千円にのぼる企業からの協賛金等、多様な財源確保に努めており、安定的な財務基盤が確保されている。上記のことから、組織活動の持続的な発展が期待できると認められた。

また、国内各地の劇場とのネットワーク連携により、演劇作品のツアー公演、海外舞踊カンパニーの共同招へいを実施した。国際的水準の公演活動等が、各劇場との密接な関係により継続されており、我が国の芸術文化水準の向上に寄与すると認められた。

県内小中学校へのアーティスト派遣事業は、県、県教育委員会との連携により継続されているほか、県立劇場として県内の劇場への支援にも努め、芸術文化の裾野の拡大にも力を入れている。

急速な高齢化が予想される埼玉県では、当該劇場のミッションの基礎となった「埼玉県 5 年計画」における重要推進課題として「活力ある超高齢社会の構築」を掲げており、県との共催で行われる高齢者参加の大規模事業は、県の施策とも合致している。高齢者の社会参加を促す事業になり得、今後更なる県民ニーズの高まりが見込まれる。

新芸術監督の着任予定で変革期にある当該劇場が、「創造・発信」に軸足を起きつつも、県民にもっと開かれた「広場」として機能する新たな方針へ軌道修正していくことの提示があった。

財源の確保については、従来からの資金調達を維持することにとどまり、新規の提案に乏しく、今後、多角的な資金を獲得できる資金調達力に課題が残った。

以上のことから、持続的なアウトカムの発現・定着については、より一層の努力に期待したい。

### （総 評）

前芸術監督のレガシーを継承してトップレベルの作品創造を継続しつつ、国内外の芸術団体による新規性、独創性のある事業に取り組み、我が国の実演芸術の水準向上に努めていた。

高度な演出にも対応可能な舞台機構と、プロデューサー、技術スタッフの専門性に支えられた質の高い公演の数々には、劇場の強みや特色が生かされていた。また、設置者である県のみならず、市や区、大学、NPO 等との連携には、県立劇場として総合的に取り組む姿勢

## 別紙（事後評価書）

が認められた。

加えて、多くの高齢者が参加する取組は毎年継続されており、高齢者の孤立解消等、高齢化社会における社会問題の解決に貢献する社会包摂の機能として期待ができる。

県立劇場として県内各地への鑑賞機会の提供にも努めつつ、高度な創造発信と、社会包摂の機能を活用した地域づくりに取り組んでいる当該劇場は、戦略的な事業計画を実行していたと概ね認められた。

## 別紙（事後評価書）

### 【新型コロナや台風等の影響を受けたもの】

H31

- 事業番号 1「彩の国シェイクスピア・シリーズ第 35 弾『ヘンリー八世』」(一部中止)
- 事業番号 6「バットシェバ舞踊団『VENEZUELA』」(公演中止)
- 事業番号 11「ピアノ・エトワール・シリーズ」(一部中止)
- 事業番号 12「舞台技術講座」劇場・音楽堂等職員対象分(一部中止)
- 事業番号 14「MEET THE MUSIC ～アーティストが学校にやってくる！」(一部中止)
- 事業番号 15「光の庭プロムナード・コンサート」(一部中止)
- 事業番号 20「バリアフリーセミナー」(中止)

R2

- 事業番号 1「彩の国シェイクスピア・シリーズ第 36 弾『ジョン王』」(公演中止)
- 事業番号 2「さいたまゴールド・シアター第 8 回公演『聖地』」(公演中止)
- 事業番号 3「コンドルズ埼玉新作ビデオダンス 2020『I Want To Hold Your Hand』」(オンラインでの実施)
- 事業番号 4「メルル・タンカード&ナタリア・オシポワ『Two Feet』」(公演中止)
- 事業番号 5「フランソワ・シェニヨール & ニノ・レーネ 『不確かなロマンスーもう一人のオーランドー』」(回数減)
- 事業番号 7「Kronos Quartet『A Thousand Thoughts』」(公演中止)
- 事業番号 9「彩の国さいたま寄席～四季彩亭」(一部中止)
- 事業番号 10「ピアノ・エトワール・シリーズ(Vol.39～41)」(一部中止、日程変更)
- 事業番号 11「舞台技術講座」(開催中止)
- 事業番号 12「大学等との連携(埼玉大学アートマネジメント講座／大学生インターンシップ／放送大学面接授業／東北大学共同研究)」(一部中止)
- 事業番号 13「MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる！」(回数減)
- 事業番号 14「光の庭プロムナード・コンサート」(一部中止、日程変更)
- 事業番号 15「みんなのオルガン講座」(日程変更)
- 事業番号 17「MEET THE DANCE～アーティストが学校にやってくる！」(回数減)
- 事業番号 18「藤田貴大新作児童劇」(一部中止、日程変更)
- 事業番号 19「劇場見学ツアー」(内容変更、日程変更)
- 事業番号 20「バリアフリーセミナー」(開催中止)
- 事業番号 21「ゴールド・アーツ・クラブ」(開催中止)
- 事業番号 22「世界ゴールド祭 2020」(開催中止)